

予定するインドネシア・フィリピン物流実態調査の概要を報告し、さらに4年前から進めていた「日本の物流の強みを確認し、その普及を図るための調査」に関連して9月に最終報告書を公表した事を報告した。

「氷感SO庫」「SORAコン」をプレゼン

ジェイアール貨物・南関東ロジステイクスと日本事業者団体連合会は6日、東京貨物ターミナル駅においてリノベーションコンテナのプレゼンテーションを開催した。従来の鉄道コンテナの機能や付加価値をより高めた「氷感SO庫（ひょうかんそうこ）」、「SORAコン（そらこん）」2種類の試作品を展示した。

冒頭、ジェイアール貨物・南関東ロジステイクスの佐々木淳社長は「新しい物流システムを構築するため、食品の鮮度を維持する2種類のリノベーションコンテナを試作した。仙台、京都、福岡でプレゼン後、11月～12月に荷物を積んで実証実験を行い、安全が担保され信頼されるものにしていきたい」と説明した。

次いで、来賓として出席したJR貨物の田村修二社長は「このコンテナは画期的なものと評価しており、低温輸送の分野にも対応するもので強力な武器になる。まだ試作品の段階だが今後、商品として成り立つようしていきたい」と述べた。

また、販売を担当する全国通運の杉野彰社長は「トラック業界

が抱えているドライバー不足を解決する大きな一歩になる。このコンテナを使った低温輸送によって、これまでの常識を大きく変える可能性がある」と語った。

「氷感SO庫」は、汎用コンテナに温度保持機能と冷却システムを付加することで、食材などを凍らせることなく長期にわたって鮮度をキープする。保管時は外部電源で充電・可動し、輸送時は蓄電池で定温管理するため、ひとつのコンテナで保管と輸送の両方を実現する。

「SORAコン」は、特殊塗装を施した汎用コンテナに太陽光ソーラーパネルを設置し、コンテナ内のファンを作動させることで庫内を24時間換気。特殊遮熱塗料と換気扇でコンテナ内の空気を強制的に循環させるため、庫内の湿度・温度が安定し、常温で積載物の品質を保つことが可能。

9月宅急便10・2%増

ヤマト運輸は6日、平成28年9月分の小口貨物取扱実績を発表した。宅急便は1億4297万2457個、対前年比110・2%。今期累計では8億9834万3595個、109・4%。クロネコDM便は1億3544万320個、対前年比106・1%、今期累計は7億5978万1172個、100・4%となった。

ヤマト運輸では、宅急便について「引き続き、大口通販顧客を中心とした法人市場が堅調に伸びている。台風の影響もあったが、営業日が前年より1日多かったことも増加の要因となった」としている。